



○「謙虚」

秋桜（コスモス）の花言葉は、謙虚、調和 ⇒

「感動、感謝、気遣い」、「健康管理、換気、気遣い」など、Kの頭文字で始まる3つの言葉を使って、これまで講話や校長室だよりなどで話をしたことがあります。



以前顧問をしていた高校のソフトテニス部の部旗には、「感動、感謝、謙虚」とありました。勝っても負けた相手に「敬意」を払い、負けても言い訳したりせず「謙虚」でいることが大切だという意味と理解していました。

三刀屋高校の校歌には、「われらの三高ここにあり。ひとしくともに誇るべし。」とあります。自慢は、単に相手に対して行う行為。誇ることは、他人から見て価値があることを、自分自身も讃えながら「謙虚」な姿勢で示すことだと思っています。

最近、「**謙虚さは慎重さにも通じる**」と感じることがあります。うっかりミスが増えたからです。ミスをするのは、単なる集中力の欠如に加え、特性や障がい、病気や加齢などが原因の場合もあります。しかし、私の場合ふと自分自身を見返すと、あたりまえのことをあたりまえと思い感謝の心を持っていなかったり、少し高飛車だったり…謙虚さが薄れ慢心している自分に気づくことがあります。

人は生活をして行く上で、人、物、環境などにおいて、良いことも悪いこともあります。全てのことをあるがままに受け入れることは難しいものです。ですが、これを受け入れていくことが、「感謝」すること、「謙虚」な気持ちでいることにつながっていると思います。誰かにぶつけたり、言い訳を考えたりすることでないと考えます。

個人データの流失などの人為ミスが報道等で見聞きすることがあります。もしかしたら、個人や組織の「謙虚さ」が薄れていたから起きるミスかもしれません。

3Kではないですが、人は、「かきくけこ」を意識すると豊かな人生を送れると言う人がいます。「か＝感動・感謝、き＝気遣い、く＝工夫、け＝謙虚、こ＝克己、向上心」です。

始業式の講話で話をした「感性」が、こうしたことの土台にあると思っています。謙虚さがなくなるのは、いろんなことがうまくいっていたり、満たされた生活をしていたり、年を重ねて物事になれたり年下が多くなったりするうちに、それがあたりまえになり慢心してしまうことから始まると考えます。楽な道や近道ばかりを追い求めると、「有り難さ(ありがたさ)」を忘れ「感謝」の気持ちが薄らいでいきます。そして「感性」が衰えていくと、美しいものを美しい、醜いものを醜いと感じられなくなります。人を傷つけても感じなくなり気遣いもしなくなります。物事を追求したりもしなくなります。向上心に乏しい自分の価値観がなによりも優先するようになり、その価値観を人に押しつけるようになってたりもします。そうなってくると、危険が身に迫っていても、それを察知する力が失われていき、人も離れ、結果的に自分が不幸になっていきます。

隠岐の島ウルトラマラソンを走る時は、必ず背中に「克己」と書かれたTシャツを着て走ることにしています。己に克つ。自分自身に勝つ。それは、人に勝つことよりも大事なことは、傲慢にならず慢心せず謙虚でいることの裏返しと思っています。